

## 資生堂所蔵の歴史的資料が「化学遺産」として認定

資生堂が所蔵する歴史的資料が、平成 28 年度(第 8 回)の「化学遺産」に認定されました(公益社団法人日本化学会主催)。これは、「近代化粧品工業の発祥を示す資料」として認定されたものです。当社で認定されたのは以下 3 品の容器と処方帖です。

- ① 日本初の固形石鹸状の練歯磨き「福原衛生歯磨石鹸」:1888 年(明治 21 年)当時の容器と 1924 年(大正 13 年)当時の処方帖<sup>※1</sup>
- ② 資生堂初の化粧水「オイデルミン」:1918 年(大正 7 年)当時の大小容器と 1924 年(大正 13 年)当時の処方帖
- ③ 本格的なヘアトニック「フローリン」:1915 年(大正 4 年)当時の容器と 1924 年(大正 13 年)当時の処方帖

※1 大正 13 年当時の主な化粧品に含まれる成分と用量を記した帳面。

2017 年 3 月 17 日(金)に慶応義塾大学日吉キャンパスにおいて化学遺産認定証贈呈式が行われ、今年度の認定対象となる「近代化粧品工業の発祥を示す資料」を所蔵する 6 者を代表して、当社代表取締役執行役員副社長の岩井恒彦が認定証を受領しました。



化学遺産に登録された商品  
左から「福原衛生歯磨石鹸」「オイデルミン」小・大、「フローリン」



左より、当社代表取締役執行役員副社長の岩井恒彦、日本化学会会長山本尚(やまもとひさし)氏

### 化学遺産とは

公益社団法人日本化学会<sup>※2</sup>が、「化学に関する歴史的に貴重な遺産を文化遺産、産業遺産として次世代に伝え、化学に関する学術と教育の向上及び化学工業の発展に資する」ことを目的として、平成 21 年度から認定を開始したものです。毎年 5~7 件の資料が化学遺産として認定されています。対象となるのは、化学プラント遺産や象徴的な建造物・構造物、保存・収集された装置・製品、歴史的意義のある化学関連文書類などです。第 8 回の認定 5 件(号)も含め、累計で 43 件(号)が化学遺産として認定されたこととなります。

※2 1878 年(明治 11 年)に創立され、会員約 3 万名を擁するわが国最大の化学の学会。

化学・化学技術の知識を進展させ、人類の発展と地球生態系の維持とが共存できる社会の構築を目指している。

**化学遺産として認定された資生堂の資料**

① 福原衛生歯磨石鹸

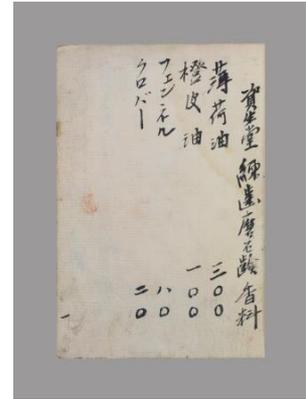
1888年(明治21年)に発売された日本初の固形石鹸状の練歯磨。粉歯磨が1袋2~3銭の時代に陶製の容器に入って25銭と大変高価でしたが、品質が良く売行きが上々、1890年(明治23年)の第3回内国勸業博覧会で褒状を受けました。容器の上部に、当時の資生堂の商標である「鷹」のマークが描かれています。



福原衛生歯磨石鹸



福原衛生歯磨石鹸 処方帖  
(製造法)



福原衛生歯磨石鹸 処方帖  
(香料)

② オイデルミン

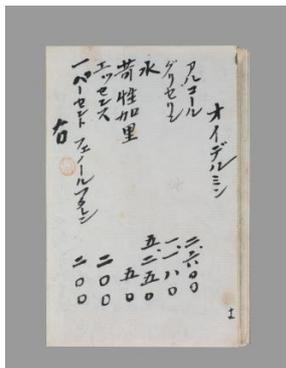
1897年(明治30年)に、資生堂が化粧品事業に進出するきっかけとなった化粧水。「オイデルミン」とは「良い皮膚」を意味するギリシャ語の造語で、西洋薬学処方にに基づき開発されました。その色から「資生堂の赤い水」の愛称で親しまれました。



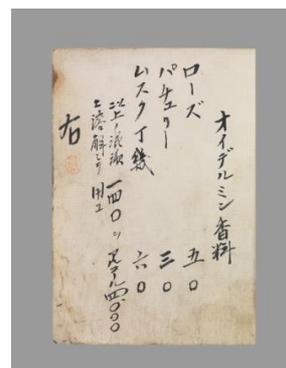
オイデルミン(小)※1918年当時



オイデルミン(大)※1918年当時



オイデルミン 処方帖(製造法)



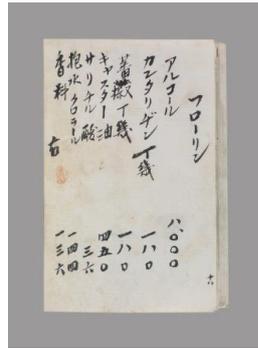
オイデルミン 処方帖(香料)

### ③ フローリン

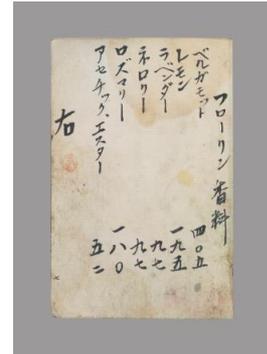
初代社長の福原信三が米コロンビア大学を卒業後、研修生として働いていたアメリカのバロー・アンド・ウェルカム社から、帰国にあたって贈られた処方箋を基に 1915 年(大正 4 年)に開発されたヘアトニック。「フローリン (FLOWLINE)」の商品名は英語からの造語で、流れるような美しい髪をイメージしてつけられました。容器は当時としては珍しい楕円筒形のガラス製の瓶で、レーベルには説明が英語で書かれ、「資生堂」や「銀座」もローマ字で「SHISEIDO」「GINZA」等と記されるなど、西洋感覚あふれるデザインでした。



フローリン



フローリン 処方帖  
(製造法)



フローリン 処方帖  
(香料)

<以下余白>